

記念碑除幕式次第

日時：平成14年11月10日（日）

午後1時～1時30分

司会：喜友名 朝 和

○ 参加者（全児童・生徒、職員、期成会役員、PTA他）

1. 開式のことば…………… P T A副会長 宮 村 和 男
 2. 校歌斉唱…………… (指 揮) 城 田 葉 子
 3. 除 幕…………… 期成会長 島 仲 重 雄
学校長 下 里 隆
児童・生徒代表 柳 沢 有 希
知 花 桃 子
P T A会長 知 花 俊 明
記念事業委員長 津 波 貞 夫
 4. 式 辞…………… 期成会長 島 仲 重 雄
 5. あいさつ…………… 学校長 下 里 隆
児童・生徒代表 永 尾 真来人
 6. 閉式のことば…………… P T A役員 中瀬古 昇
- ※ アトラクション（棒術）…………… 米原部落青年会長 津 波 行 雄 他

記念祝賀会プログラム

日時：平成14年11月10日（日）

午後3時～午後5時

場所：富野校体育館

司会：入字部 弘光

- | | | | |
|-----|----------------|---------|-----------------|
| 1. | 開会のことば | 記念誌副委員長 | 平 田 公 子 |
| 2. | かぎやで風 | 期成会長 | 島 仲 重 雄 |
| | | 学校長 | 下 里 隆 |
| | | P T A会長 | 知 花 俊 明 |
| | | 副会長 | 前 津 明 美 |
| | | 募金委員長 | 砂 川 孫 秀 |
| | | | 砂 川 安 江 |
| | | 事業委員長 | 津 波 貞 夫 |
| | | 記念誌委員長 | 南 苗 子 |
| 3. | 乾杯の音頭 | 沖縄県議会議員 | 高 嶺 善 伸 |
| 4. | 鷺の鳥節 | 卒業生 | 大底恵子・仲榘光子・宮城よし子 |
| 5. | 安里屋ユンタ | | P T A、宮村和男他 |
| 6. | スピーチ | 前校長 | 鳩 間 真 英 |
| 7. | 三味線合奏・富野っ子エイサー | | 児童生徒・職員 |
| 8. | スピーチ | 元校長 | 波 平 長 吉 |
| 9. | 桴海口説 | 卒業生 | 玉 城 重 雄 他 |
| 10. | マミドーマ | 学校職員 | 慶田盛みほ子他 |
| 11. | スピーチ | | 卒 業 生 |
| 12. | 楚辺エイサー | | 知花聡他、楚辺有志 |
| 13. | 空 手 | | 知花恵里奈・古見南津子 |
| 14. | スピーチ | | 卒 業 生 |
| 15. | 富野校行進曲 | 卒業生 | 砂川なり子他全員 |
| 16. | 万歳三唱 | 富野公民館長 | 砂 川 孫 秀 |
| 17. | 閉会のことば | 期成会副会長 | 前 津 明 美 |

【地謡：唄・三味線/浦崎宜浩・黒島 聡 太鼓/山根 聡 笛/南風野喜吉】

感謝状・表彰状受賞者ご芳名

1) 50周年記念事業

○高額寄付者

堀川 モヲシ 様 やえやま石材 有限会社 高嶺酒造所 鳩間 真英 様 知花 孝雄 様	仲 嵩 精 一 様 米 子 焼 工 房 仲 本 英 功 様 砂 川 孫 秀 様	亀 川 功 様 石垣島製糖株式会社 波 平 長 吉 様 下 里 隆 様
--	--	--

○物品寄贈者

仲 本 英 立 様 津 波 貞 夫 様 (共立開発株式会社)	名嘉真 強 様 知 花 忠 様	知 花 俊 明 様
--------------------------------------	--------------------	-----------

2) 教育活動功労

○歴代校長

第5代	國 吉 長 庸 様	S47.4 ~ S49.3	第11代	玉 城 正 浩 様	H 6.4 ~ H 8.3
第9代	大 盛 哲 雄 様	S60.4 ~ H 1.3	第12代	波 平 長 吉 様	H 8.4 ~ H11.3
第10代	大 仲 康 文 様	H1.4 ~ H 6.3	第13代	鳩 間 真 英 様	H11. ~ H14.3

○歴代PTA会長

第9.14代	真栄里 昌 茂 様	第16代	上 地 常 雄 様	第20代	宮 村 和 男 様
第10代	宇 根 一 男 様	第17.21代	砂 川 孫 秀 様	第22.24代	永 尾 幸 弘 様
第13代	仲 本 英 功 様	第18代	上 地 源 福 様	第23代	中瀬古 昇 様
第15代	堀 川 清 春 様	第19代	底 原 英 順 様		

2) 特別功労

故 大 田 正 吉 様 (初代校長)	初代校長として、本校の礎をきずき、校区の村づくり・人づくりに貢献するのみならず、平成7年にはテントを寄贈するなど、折に触れて本校教育に深い理解と愛情を注ぎ、物心両面の貢献をした。
-----------------------	---

島 仲 重 雄 様	本校2期卒業生として、創立30周年・50周年の期成会長を引き受け、本校の発展に寄与した。
-----------	--

砂 川 孫 秀 様	本校6期卒業生として、創立30周年の募金活動、平成7年の体育館落成記念校庭整備や創立50周年記念事業の募金活動を精力的に取り組み本事業に多大な貢献をした。
-----------	---

式辞・祝辞



式 辞

期成会長 島 仲 重 雄

さわやかな秋を迎えここに 大瀨長照石垣市長 村田栄正教育長 高嶺善伸県議会議員来賓各位をはじめ、PTA、卒業生、在校生、地域住民多数のご臨席を頂き、石垣市立富野小中学校創立50周年記念式典、並びに祝賀会が盛大に挙行できますことは、本校の誇りであり、この上ない喜びとして衷心より厚く感謝とお礼を申し上げます。

本校は昭和27年2月27日川平小中学校富野分校として、八重山郡島政府より認可され、建坪、16坪の木造瓦葺平屋校舎一教室で同年4月29日開校しました。

開校当時は先住の富野の人々と琉球政府の計画移民により、読谷村・美里村から移住して来た人達が風土病（マラリヤ）や天災と闘いながらジャングルを切り開き開拓に励んだ苦難の時代でした。

厳しい生活のなかにながら困難を克服し、50周年を迎える事が出来ますことは、本校発展のためにご尽力いただいた歴代校長先生をはじめ、諸先生方さらに地域住民の燃えるような努力とご苦勞の賜であり、心から敬意と感謝を表する次第であります。

本校はこの半世紀に、逞しい開拓魂を持った200余名の卒業生を送り出す事ができ、現在県内外各地各界で活躍していることは、実に心強く本校の誇りであります。

50周年の意義深い歩みを祝福し、先人のご苦勞に感謝すると共に、学習環境を整備し子ども達の学習の向上と本校教育の充実発展を期する為、学校、PTA、卒業生、地域が一体となって、記念事業既成会を発足し ①記念碑の建立 ②記念誌の発刊 ③教育環境の整備を計画し、その実現のため努力して参りました。しかし、これらの事業には多額の資金が必要であり各方面に物心両面のご援助をお願いして参りました。社会経済状況の厳しい折にも関わりませず、校区民はもとより、卒業生、本校子弟教育に関心を寄せて下さいました篤志家のご芳志とご援助をいただき、ここに記念事業が完成することが出来ましたことは、感謝と感激の外なく、皆様のご支援ご協力に対し深甚なる敬意と感謝を捧げたいと思います。

結びに、私達は、この輝かしい50年の歴史と揺るぎない伝統を受けとめ、年々生徒数が減っていくなかで百周年に向けた新しい指標となるべきものを残さなくてはなりません。

平和を願い、本校の限りない発展とご臨席いただきました皆様のご多幸を心から祈念申し上げ式辞といたします。



あいさつ

石垣市立富野小中学校

校長 下里 隆

本日ここに本校創立 50 周年の記念すべき日を迎え、大瀨長照市長をはじめ多くの来賓の方々、創立 50 周年期成会員、保護者の方々並びに本校教育向上にご尽力下さいました皆様のご臨席をいただき創立 50 周年記念式典がこのように盛大に挙行できますことは誠にこの上ない喜びであり関係者の皆様方に心から厚くお礼申し上げます。

さて、本校は昭和 27 年 2 月 27 日、川平小中学校富野分校として八重山群島政府により認可され、同年 4 月 29 日、児童数 7 名で開校しました。住民のほとんどは読谷村や美里村からの計画移民や自由移民でした。

当時は悪性マラリアが横行する中ジャングルを切り拓く毎日であったが、住民達の学校教育にたいする熱意は強く、行政に働きかけ廃校になっていた分校を再開し 5 年後には富野小中学校として独立することができました。あれから 50 年が経ち卒業生は 206 名を数え、島内は勿論のこと、沖縄本島、本土でも立派な社会人として大活躍をしています。先輩達がつくりあげた素晴らしい校風と伝統は今でも後輩達に引き継がれています。

開校以来、心身共に健康でたくましい子どもの育成をめざして「自ら学び深く考える子」、「心豊かで自己実現に努める子」、「健康でねばり強い子」、「勤労を尊び郷土を大事にする子」を教育目標に掲げ教育実践を積み重ねて参りました。50 年間における本校児童の活躍にはめざましいものがあります。主な足跡を振り返ってみると八 P 連主催意見発表会での最優秀賞、人権作文コンテスト沖縄大会での最優秀賞、沖縄教育版画コンクールでの特選、第 2 回八重山郡小中学校陸上競技大会での 200M (1 位) 走幅跳 (2 位) 少ない児童生徒数ですが文化面でもスポーツ面でも頑張っています。

特に子どもと職員が毎日積極的に取り組んでいる環境整備。道行く人々も必ず足を止めて眺めるタイワンレンギョとアカリイファでつくられた「とみの校」の文字。年中絶えることのない花と緑の学校。甲斐あって花壇コンクールで 3 年連続最優秀賞に輝いています。

これらの実績は言うまでもなく歴代校長はじめ教職員、PTA の方々の努力の賜であり深く感謝しているところでございます。さらに、この記念すべき年に石垣市当局のご高配により情報機器及び校内ランの設置が充実されたことに対しても感謝申し上げます。すでに小学 2 年生から中学 2 年生までの全校児童生徒がコンピュータを活用した授業に取り組んでいます。今後も更に指導法等の工夫改善をし次代を担う子ども達の教育効果を最大限に上げるよう努力して行きたいと思えます。

50 周年の輝かしい節目に当たり本校の新なる発展を願って「創立 50 周年事業期成会」が結成され、記念碑建立、記念誌編集、富野行進曲の CD 化、環境整備等の諸事業を推進していただきここに記念式典を開催することができました。記念事業に誠心誠意ご尽力下さいました皆様方に深く感謝申し上げます。

私たちは、皆様のご厚情に応え、記念式典を契機に心を新たにし、本校児童生徒の教育により一層努力することをお誓い申し上げあいさつといたします。



あいさつ

P T A 会 長 知 花 俊 明

秋風もさわやかなこちよい季節を迎え、本日ここに富野小中学校創立 50 周年記念式典を挙げる事ができます事に心よりお慶び申し上げますと共に P T A を代表してお祝いのあいさつができます事は身にあまる光栄に存じます。

さて富野小中学校は昭和 27 年 2 月 27 日に川平小中学校富野分校として八重山郡政府より認可され、同年 4 月 29 日、児童数 7 名、初代校長 大田正吉先生の元に富野小中学校としてスタートいたしております。

以来、昭和、平成の時代の流れと共に歩み、その間優秀な卒業生を数多く送り出し郷土八重山をはじめ、県内外の各界でご活躍され、社会の発展に大きく貢献しておられる事は私達の大きな誇りと喜びであり、母校の名誉として心より敬意を表するものであります。

昭和 40 年代には 100 名以上の生徒数があり活気あふれる時期もありましたが、大型台風や干ばつの影響で市内や沖縄、あるいは宮古島へ次々と引っ越しされた家族があり生徒数もだんだんと減って、今では 8 名の生徒が頑張っています。

昭和 61 年には中学校が休校となり、中学校廃校の心配もされましたが、それらの苦難を克服し今日に至ったのも諸先輩方、歴代校長先生をはじめ、諸先生方、地域の皆様方のご尽力のたまものだと深く感謝申し上げます。

現在、生徒数 8 名ですが本日の 50 周年を機に本校生としての誇りと自信をもち、この自然に恵まれた素晴らしい環境の中で勉強やスポーツに励む事と思います。

私達 P T A といたしましても、学校、地域と一体となって子供達の大きな夢と希望にみちた勉強のできる環境づくりに努めていきたいと思っておりますので、皆様方の一層の御指導と御支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

結びに 50 周年記念事業に際し、御協力をいただきました卒業生はじめ関係機関、地域の皆様に心より深く感謝申し上げますと共に記念事業を企画されました期成会長や役員の皆様や校長先生はじめ諸先生方、関係者各位に対し心から敬意を表し厚くお礼申し上げます。

今後共富野小中学校の限りない発展を祈念して私のあいさつといたします。



祝 辞

石垣市長 大 瀨 長 照

本日ここに、石垣市立富野小中学校が創立 50 周年を迎え、記念式典が厳粛のうちにも盛大に執り行われますことは、誠に意義深く心からお祝い申し上げます。

校史にひときわ輝く半世紀の歴史の節目を、児童生徒の皆さん、父母の皆様並びに下里隆校長先生はじめ諸先生方並びに地域の皆様と共々にお喜び申し上げます。

さて、富野地区は昭和 27 年、戦後の厳しい環境の中を琉球政府の移住計画により読谷村や美里村から新天地を求め人々が米原に新しい集落をつくり、富野先住の人々と協力し風土病のマラリヤが横行するジャングルを開墾し集落の振興発展を遂げてきました。日々の生活もままならないなか師弟の教育こそ最重要課題として学校建設に向けて様々な活動に取り組み、昭和 27 年川平小学校富野分校として設立、昭和 32 年富野小学校・富野中学校として独立校となり幾多の返還を経て、実に半世紀の歳月を数えてきました。

この 50 年の歩みには、戦後教育制度や施設等の面で大きな困難がありましたが、教職員はもとより校区民をはじめ地域の皆様の教育に対する情熱によって、今日を迎えていることは改めて申し上げるまでもありません。

この長期にわたり皆様は、その時代、時代を力強く生きてこられ、幾多の辛苦と困難を克服し、営々として教育に従事され、数多くの有為な人材を輩出させて県内外各界で活躍し本校の今日の隆盛をもたらしたことは、ひとえに歴代諸先生方並びに関係者皆様の献身的なご尽力の賜であり、心から感謝申し上げる次第であります。

ご承知のとおり、当地における群外からの開拓移住は、戦後沖縄の置かれた内外の厳しい諸情勢のもとで実施されておりましたが、未開の沃野に希望をもって当地に移住された皆様には筆舌に尽くせぬ困難が待ち受けておりましたが、たゆみない不屈な開拓魂により新天地を切り開いてまいりました。

道路交通機関の未発達、風土病のマラリアの恐怖など様々な困難に遭遇されていたなかでも、まずは師弟の教育環境の整備に力を注いだことは、校区民皆様の意欲的な開拓魂の表われであり、歴史を刻む輝かしい一つの足跡でもあります。

花壇コンクールにおいては連続 3 年最優秀賞を獲得するなど道行く人々に美しい草花を楽しませており、石垣市市民憲章の実践校としても顕著な実績をのこしております。

本日よりさらに、新たな歴史を踏み出すこととなりますが、本校で学ばれる児童生徒の皆さんは数少ないけれども、伝統ある母校の歴史を礎として、このような立派な学校、地域で学び育つことを喜び、諸先生方や父母のご指導のもと、元気で勉強に励まれるようお願いいたします。

当地は近年、八重山ノヤシや荒川のカン桜など国の天然記念物や美しい海岸線を有した米原のキャンプ場など行楽地や観光地の名所としても県内外に知られておりこれからますます脚光を浴びる地域となることでしょう。

最後に、50 年の星露を重ねた富野小中学校の偉容を誇りとする皆様と共に喜び、この歴史を更に意義あるものとし、子供達が未来に向かって明るくたくましく成長することを願い、併せてと身の小中学校の益々のご発展と皆様方のご鞭撻をお祈り申しあげ祝辞といたします。



祝 辞

石垣市教育委員会教育長 村 田 栄 正

本日ここに石垣市立富野小中学校が創立 50 周年の輝かしい佳節を迎えられ、児童生徒、ご父母、先生方をはじめ卒業生、地域の皆様様の臨席のもと盛大な記念式典が挙行されますことを皆様と共に心から喜び、お祝い申し上げます。

さて、富野小中学校の 50 年の沿革史をひもときますと、昭和 27 年に川平小学校富野分校として設置認可され、翌年には中学校が設置されております。それから 5 年後の昭和 32 年、名実共に石垣市立富野小中学校として独立を果たします。

その間、仮校舎が台風で何度となく倒壊するなど災難に見舞われましたが、子弟の教育に惜しみない情熱を注ぐ地域の皆さんが一致団結してその建て替えに当たられたとうかがっております。桴海開拓移民団として入植され、日々の生活もままならない中、学校教育に格段の理解と絶大な支援をしていただき、創立 5 年、10 年、30 年など節目節目には記念事業を行い、教育環境の更なる整備に取り組んでこられましたことに衷心より敬意を表し、感謝申し上げます。

新天地での生活の厳しさや前途への不安に耐え得たのは、豊かで新しい生活の確立という不退転の決意と、子どもたちの明るい未来を思い描く希望があったからではないでしょうか。皆さんの子どもたちに寄せる熱い思い、学校に寄せる期待の大きさがひしひしと伝わって参ります。

今日、社会経済のあまりにも大きな変化やあいつく自然災害などによって多くの方々が村を去られ、過疎地と化してしまっていますが、このような苛酷な時代状況の中にあっても村を守り、学校を守って来られた方々のご尽力のおかげで富野校は力づよく歴史を刻み続けています。

富野小中学校は、図書館モデル校や基礎学力向上研究校などの指定を受け、数々の研究実践を重ね、大きな成果を上げてこられました。緑化や花壇コンクールなどにおいても目覚ましい実績がございます。花壇コンクールにおいては平成 8 年度から 3 年連続最優秀賞という快挙を成し遂げました。

このように地域の全支援のもと、心おきなく充実した学校経営を展開する富野校は優秀かつ誠実な人材を多数世に送り出し、各界、各層で活躍しておられますことは石垣市の誇りでもあります。本校の歴史の中には一時期中学校が廃校となり、また復活するなど紆余曲折がありましたが、現在では立派な体育館や音楽室などの特別教室ができました。ランチルームの建設や庭園の整備もそうです。また、情報化時代にふさわしく校内ランが他校に先がけ整備されております。このように整った環境の中で伸び伸びと学習できる子どもたちの将来には大きな期待がもてます。

結びに、本記念事業の推進にご尽力くださった期成会長や学校長をはじめとした関係各位に心から感謝申し上げます。富野小中学校のますますの発展にご臨席賜った皆様様のご多幸を祈念し、祝辞といたします。



祝 辞

沖縄県教育庁八重山教育事務所
所 長 志喜屋 清

このたび、校区民こぞって学校創立 50 周年の記念式典を盛大に挙行されますことを御列席の関係各位とともに心から慶び、お祝い申し上げます。

さて、富野小中学校の 50 年の歩みを顧みますと、昭和 27 年 2 月に川平小中学校富野分校として八重山群島政府より認可されて同年 4 月に開校のスタートを切り、翌年 2 月には川平中学校富野分校としても認可されております。当時、開拓移民として地域に移住した方々の子弟の受け入れもあって児童生徒の在籍が 24 名であったと沿革には記されています。校区・地域住民は、生活の地を切り開いていくという厳しい環境の中にもありながらも、子弟の教育に対する思いは熱く、人づくりという偉大な事業に立ち上がり、今日にみるような大きな業績を残されました。

爾来、激動きわまりない社会情勢の中、幾多の苦難や試練を克服し、『教育なくして開発なし』との先人たちのかたい信念が、着実な教育実践を生み、数多くの人材を排出し、輝かしい歴史と伝統を築き上げる礎となりました。

富野小中学校は、地域にねざし、豊かな自然と、へき地小規模校の特性を生かした特色ある教育活動を推進しています。その成果は子どもたちの活躍として顕著に現れました。「花と緑の富野校づくり」を合い言葉に、学校内外の美化に取り組み、石垣市の花壇コンクールで平成 8 年度から 3 年連続の最優秀賞を受賞しています。また、地域のボランティア・清掃活動や環境学習にも児童・生徒会が積極的に活動を展開し、「樹木の大気浄化能力チェック」で感謝状の受賞、「子どもの地球環境作文コンクール」での表彰などすぐれた実績をあげています。

さらに、日本英語検定努力賞の 2 年連続受賞、漢字能力検定の全校的な取り組み、人権作文コンクールでの最優秀賞をはじめ、各種のコンクールで常に入賞を果たすなど、児童・生徒個々の能力を伸張させる教育活動には素晴らしいものがあります。

21 世紀は科学技術の発展や高度情報化社会の実現により社会が大きく変化していきます。このような社会の変化に対応してみずから学ぶ意欲を育て、豊かな表現力とねばり強さを持つ児童生徒を育成することが求められています。富野小中学校におかれましても、50 年の伝統を基盤として、これからの国際社会に活躍する人材育成に、学校、P T A、地域の方々が英知を結集して三位一体となってお尽力くださいますことを切望いたします。

児童・生徒の皆さん、富野小中学校創立 50 周年という素晴らしい年にめぐり逢わせた幸せを大切に、決意も新たに、よりよい富野校づくりに励んでください。21 世紀は君たちの時代です。社会に役立つ立派な人間、たくましい人間に清澄することを願っています。

結びに、創立 50 周年の節目にあたり、記念事業期成会の皆様をはじめ歴代校長、地域住民、父母の皆様並びに関係各位に対し、深甚なる感謝と敬意を表し、富野小中学校の限りないご発展を心から祈念いたしまして、お祝いのことばといたします。

50 さいおめでとう

2年 ちばな ももこ



とみの校、50 さいおめでとう。

とみの校が生まれていたころはまだ、わたしは生まれていません。この前、むかしのことをききました。わたしは、とみの校のことがいっぱいしりたいです。そして、とみの校が大すきになりたいです。

今のとみの校は、8人なので、20人ぐらいにふえてほしいです。もっともっときれいな学校にして、みんなとなかよくおべんきょうをしてみたいです。

とみの校 50 さいおめでとう

2年 やなぎさわ ゆき



とみの校は、お花がいっぱいさいていて、ちょうちょもいっぱいいます。2かいのピロティーから海も見えるし、はんたいからは、山もみえます。とみの校は、いいところにあると思います。

とみの校は、8人しかいないので、さびしいです。もっとふえるといいなと思います。ことしは、1年生がいないので、おねえさんになれませんでした。3年生になったら、1年生や2年生がくるといいなあ。

わたしは、とみの校を楽しい学校にしたいです。

富野校 50 周年

3年 永尾 乃 亜



今年で、富野校は50 さいになります。

50 年前のことをきょうとう先生やまたよしカツ子さんたちから聞いたりしました。

50 年前の米原・富野はジャングルみたいだったそうです。それから、電気もないので、ランプで生活していたそうです。

また、むかしは、おそろしい病気もあったそうです。それは、マラリアです。マラリアにかかったら、死んでしまうこともあったそうです。

昔は、そんなにも大変だったのかと思いました。

今は、めぐまれています。富野と米原のみんなでがんばっていきたいです。

50周年おめでとう



4年 知花 壮一郎

富野小学校は、今年で五十周年をむかえます。

富野校は、自然いっぱいの元気あふれるたのしいがっこうです。

近くには、うしごやがありいつも、うしたちはぼくたちが勉強するのをみえています。

ぼくのお父さんは、いまPTA会長をして地域の人たちや富野校のみんなといっしょに50周年のおい
わいのじゅんぴをしています。

次は、60周年・70周年……そして百周年になるので、その時は富野校のためにがんばりたいです。
百年後の富野校がたのしみです。

150周年、200周年まで、あったらいいな。

大好き！富野校



5年 知花 茜

富野校は、今年で50才です。

この間、又吉カツ子さんを招いて、昔の富野や米原のことについていろいろ教えて
もらいました。マラリアにかからないように黄色くなるまで粉をぬった事、昔は
先生が生徒をたたいても親は「ヨーシッタイ」としか言わなかったことなど話してもらいました。

今、私は総合的学習の時間に昔の富野校について調べています。富野校は川平校から分かれてきたこと
が分かりました。一番ビックリしたのは、中学校が一度廃校になったことでした。

これからは、大好きな富野校が、もっと花いっぱいの学校になるように、がんばります。

富野校、50周年おめでとう!!

富野校、サイコー！



6年 永尾 真来人

今年で富野校は満50才になりました。小学3年生以上は総合的な学習の時間に、
富野と米原のことをテーマに調べ学習をしています。ぼくはカンムリワシのこ
とを調べています。なぜカンムリワシを調べてみようと思ったかというと、最近よく富野校にカンムリワシ
がやってくるからです。調べてみてぼくが一番びっくりしたことは、カンムリワシは外の島にわたったり

しないということです。

ぼくは、富野校はいいところが二つあると思います。一つ目は、植物の楽園のような学校だということです。みんなで水をあげたり、手入れをしたりしているからそうなったと思います。二つ目は、みんなで力を合わせれば、百人力のパワーをもっているところです。

ぼくは胸を張っていいます。

「富野校、サイコー！」



送る言葉

中学1年 宮村 龍三

「おはようございます。」

この学校に入ってから何回この言葉をいったでしょうか。7年間という長い月日を僕は富野校で過ごしてきました。しかしそれは富野校の歴史に比べればとても短いものです。富野校は、米原に人が入植してから50年間米原・富野の人と一緒に過ごしてきました。その50年という長い時間に比べれば、7年間なんて10分の1ほどなのです。

そう、富野校は50周年を迎えたのです。僕は富野校の校舎の形や、通路、近道、ひび割れがどこにあるかなども知っているつもりです。しかし実際には、富野校は一言では言い切れないほどにたくさんの事柄があったのです。富野中が閉校になったり、川平分校から富野校になったことなど、僕が知らないようなことがたくさんあったのです。そういう僕が知らない富野校がわかってきたと思うと、ますます富野校が好きになったような気がしました。そして心からこの言葉を富野校に言いたくなりました。

「50周年、おめでとうございます。」



「創立 50 周年」

中学2年 永尾 来津樹

「創立 50 周年」。この富野小中学校ができてからもう50年もたち、きっと色々な出来事があったことでしょう。この伝統ある富野校の50周年行事を富野校の先輩方と迎えることができとてもうれしく思います。

以前、又吉カツ子さんを講師に迎えて、米原・富野の50年の話を聞きました。読谷から船に乗り、この米原を開拓をするためにやってきたことや、マラリアに苦しみながらの貧しい生活を送ってきたなど、50年前の富野小学校の周りの様子は、今の僕には想像もできないような話ばかりでした。

一方、富野校についても、一時は、児童生徒が100人を越えるほど多い時もあったのに、富野中学校が閉校になるほど生徒数が減った年もあったようです。このようにいくつかの困難を乗り越えながら現在の富野校はあるのです。

50年という月日を見ると、本当に長い間多くの児童生徒を見守ってきた富野校に感謝したい気持ちでいっぱいです。僕がこの輝ける記念の年に在校できることを本当に誇りに思います。

創立 50 周年おめでとうございます。

富野小中学校創立 50 周年記念事業期成会会則

第 1 章 総 則

第 1 条（名称及び事務局）

本会は、石垣市立富野小中学校創立 50 周年記念事業期成会と称し、事務局を富野小中学校小中学校に置く。

第 2 条（目的）

本会は、石垣市立富野小中学校創立 50 周年記念事業の達成を目的とする。

第 3 条（事業）

本会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 記念事業並びに記念行事等の企画運営。
- (2) 記念事業を遂行するための募金活動
- (3) その他、本会の目的を達成するための関係事業又は付随する事業。

第 2 章 組織及び役員

第 4 条（組織）

本会は、次の者をもって組織する。

- (1) 富野小中学校PTA会員、卒業生、地域住民員及び本会の趣旨に賛同する者。

第 5 条（役員）

本会に次の役員を置く。

- (1) 会長 1 名 (2) 副会長 2 名 (3) 顧問 若干名
- (4) 理事（正副会長、各正副委員長、事務局長） (5) 正副委員長各 1 名 (6) 事務局長 1 名
- (7) 書記 1 名 (8) 会計 1 名 (9) 監査 2 名

第 6 条（役員の選出）

役員の選出は、次のとおりとする。

- (1) 会長、副会長、顧問、各正副委員長、事務局長、会計及び監査は総会で選出する。

第 7 条（役員の任務）

役員の任務は、次のとおりとする。

- (1) 会長は、本会を代表し会務を統括する。
- (2) 副会長は、会長を補佐し、会長事故あるときは、その職務を代行する。
- (3) 顧問は、本会の事業に関し諮問に応じる。
- (4) 理事は理事会を構成し、本会の企画・運営に当たると共に重要事項について評議決定する。
- (5) 委員長は、各委員会の企画・運営に当たる。
- (6) 副委員長は、委員長を補佐し委員長事故あるときは、その職務を代行する。

- (7) 事務局長は、本会の庶務及び事務を統括する。
- (8) 会計は、金品の出納事務に当たる。
- (9) 監査は、本会の会計事務を監査し、総会において報告する。

第8条（役員任期）

- (1) 役員任期は、本会の解散までとする。
- (2) 補欠によって就任した役員任期は前項同様とする。

第3章 機 関

第9条（機関）

本会に次の機関を置く。

- (1) 総 会
- (2) 理事会
- (3) 委員会

第10条（総会）

- 1 総会は必要に応じて会長が招集する。総会の議長は会長があたる。
- 2 総会は次の事項を行う。
 - (1) 会則の制定。
 - (2) 役員を選出
 - (3) 事業並びに予算、決算の承認。
 - (4) その他本会の目的達成に必要な事項。

第11条（理事会）

理事会は、総会に次ぐ議決機関とし、会長が召集し、次の事項を行う。

- (1) 事業の企画予算、決算の編成に関する事。
- (2) 総会の委任事項の処理。
- (3) 各委員会との連絡調整。
- (4) その他本会の目的達成に関する事。

第12条（委員会）

本会に次の委員会を置く。委員会の任務は別に定める。

- (1) 企画総務委員会
- (2) 募金委員会
- (3) 記念事業員会
- (4) 記念誌編集員会

第4章 会 議

第13条（会議）

- (1) 総会・理事会は会長が招集し、議長は会長が行う。
- (2) 委員会は、会長の同意を得て委員長が招集し、議長は委員長が行う。
- (3) 議事は、出席者の過半数で決する。

第5章 会 計

第14条（会計）

- 1 本会の会計は、寄付金その他の収入をもってあてる。
- 2 本会の会計は随時監査役の監査を受ける。

第6章 付 則

第15条（解散）

本会は、目的達成後、事業並びに決算の報告をし、総会の議決をもって解散する。

第16条（残余財産の処分）

本会に残余財産が生じた場合には、すべて石垣市へ寄付する。

第17条（施行）

この会則は、本会発足の日（平成13年10月7日）から施行する。